

令和2年度第3回杉戸町立小中学校通学区域等審議会（書面会議）結果報告書

1. 委員からのご質問及び事務局からの回答

No.	資料ページ	アンケート結果に対する委員からのご質問	事務局からの回答
1	1	Q 1 の保護者の回答率、5 歳児の保護者の回答率が低い。全体の回答率が55.6%、全体的に言えることは無関心と思う。	回答率に関しましては、回答期限の延長や再度のお願いの通知を出したりして少しでも回答率が上がるように努めた結果の数値となっております。今回のアンケート調査については、過去に町が郵送にて実施した町民アンケートの回答率と比べて特別低い回答率とはなっていないため、回答方法を原則WEB回答としたことが回答率が伸びなかった要因ではないと分析しております。事務局では、学校の適正規模・適正配置や学校の再編計画について、より多くの方に関心を持っていただけるよう情報提供や周知に努めてまいりたいと考えております。
2	1	WEBアンケート回答率の低さが気になります。全体で55.6%とは2人に1人しか回答していないことになります。これで果たして全体の意志・意向が反映されていることになるのでしょうか。また、教職員が4人中3人と低いのも気になります。当事者意識の欠如と非難されても仕方ありません。	
3	9	スクールバス及び公共交通機関を認めた方が良い。自転車の場合、低学年では危険では。	今後、学校の再編計画を検討する際に具体的に検討してまいりたいと考えております。
4	10	5 歳児及び小学3・5年生の保護者・教職員の回答でスクールバスを運行するという比率が高くなっています。実際に学校の統廃合が行われた場合にスクールバスの運行は計画されているのでしょうか。年間を通した運行の場合は、相当の金額になると考えます。果たして現実的なのでしょうか。	スクールバスの運行については、今後、学校の再編計画を策定していく段階で具体的な検討をしていくことになると考えております。運行方法や費用についても、すでに運行を開始している自治体の例も参考にしながら検討してまいりたいと考えております。

5	11・12	Q8の調査結果、①②を合わせると約85%の回答である。更にQ9では③の回答が教職員以外は60%を超えている。この結果から当局としてどのような方向性を出すのか。	事務局としては、今後も審議会を通して学校の適正規模・適正配置や統廃合を含めた学校の再編計画について引き続き検討を進めてまいりたいと考えております。
6	16～18 34～36	各校ごとの集計結果から現在通っている学校状況を満足できる状況と考えていると思われる（小学校も中学校も同じ傾向）。他の規模の学校についてイメージしにくいのだと思う。	児童・生徒のアンケート結果については、ご指摘のとおり他の規模の学校についてイメージしにくいことが結果に影響していると考えられますが、P16の泉小及びP34の東中の結果から少なくとも小規模校については現状に満足していない児童・生徒の割合が高いと事務局では分析しております。
7	16～18 34～36	児童・生徒のアンケート結果がすべて現在の状況を良しとしている。何か違和感があるのでは？	
8	19	1ページでも述べましたが回答率の低さが気になります。とりわけ保護者が32.49%、教職員が41.98%と驚くほどの低い回答率です。これは、統廃合が現実であることを「意識していない」ことの表れだと思います。認識不足のもたらすものは、実際に統廃合の問題が現実になった時に混乱以外の何ものでもありません。	中学校の回答率に関しましても、回答期限の延長や再度のお願いの通知を出したりして少しでも回答率が上がるように努めた結果の数値となっております。率直な御意見を伺うため無記名式のアンケートとしたことも回答率に影響していると考えられます。また、認識不足とのご指摘に関しましては今後、学校の適正規模・適正配置や学校の再編計画についての検討状況について周知を図ってまいりたいと考えております。

9	26	中学生の通学時間についての質問に対しての回答が30分までとありましたがどのような通学方法の場合？中学生の場合、徒歩、自転車の2通りの通学があります。	今回のアンケートでは、まずQ6で通学時間の許容範囲をお聞きし、次のQ7でQ6で答えていただいた通学時間の範囲で子どもたちに必要な配慮をお聞きする構成となっております。なお、P28のQ7の集計結果では「Q6で②30分までと回答した方」の回答で一番多いものは「④自転車の利用を認める。」となっております。
10	その他	文科省は小学校では2025年度までに35人学級を考えている。中学校では従来通り40人学級か？	現時点で町の教育委員会が把握している情報としては、小学校で2025年度までに段階的に35人学級にするという国の方針のみとなっております。

2. 委員からのご意見

※ご意見につきましては貴重なご意見として今後検討の際の参考とさせていただきます。

No.	資料ページ	アンケート結果に対する委員からのご意見
1	5	Q 4 で5 歳児の保護者と小学 3 ・ 5 年生の保護者では多少意見の相違が見られる。社会という大集団の中で生きるため、社会性を育むうえでどうなのか。効果と課題の落としどころをどのように考慮するか難しいところである。
2	8～9	Q 6 の小学生の片道の通学時間について、3 0 分までは妥当と考える。Q 7 ③は難しいと推察する。当局の財政的な事を考慮すると Q 7 の①の弾力的な学校選択も一つの方策と考える。
3	9	Q 7 は「③スクールバスを運行する」が望ましいと考える。
4	8～10	小学生の通学時間について「3 0 分まで」が多いが、現実「3 0 分まで」で通学できる児童はどれくらいいるだろうか。学区域が広い学校は3 0 分以上が多く、統廃合を考える時の大きな課題になると思います。
5	11	地域のことを考えると統廃合はやめるべき、人数が少なくても運営すべき。
6	12	建て替えではなく、もうしばらくの間改修した方が良い。
7	12	Q 9 の学校の統廃合について、小学生の通学時間を考えると、どの学校へ統合し、どの学校を廃校にするか課題と考える。小学校 4 校、中学校 2 校に再編するのが望ましいと考える。
8	16～18	1 クラスの人数が少なすぎる（1 0 人ぐらい）ことは、現在人数が減少傾向の三小、泉小でも望んでいないことがわかる。
9	28	Q 7 の「①住所から近い場所にある学校への通学を認める」については、隣接市町へも通学を認めることが望ましいと考える。